

伝える大震災、つながる防災

災害メモリアルアクションKOBÉ

ACTION 2021

KOBÉのことば

定員：先着60名
参加無料

※ 密を避けるため、会場内の参加者数を常に60名以内に保ちます。60名を超える場合は、入場をお断りいたします。※ 会場にお越しになる場合は、マスク着用をお願いします。※ 感染拡大の状況により会場での開催を中止とさせていただきます。

活動報告会

日時 **2021.1.9 [SAT]**
10:00 → 13:15

会場 阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

これまで「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアルコンファレンス・イン神戸（1996～2005）」、そして、その教訓を次世代に伝えるために「災害メモリアル KOBÉ（2006～2015）」を実践してきました。

2016年からこの先の10年を見据え「KOBÉのことば」をキーワードに「災害メモリアルアクション KOBÉ」という取り組みを開始しました。阪神・淡路大震災のつらい経験を二度と繰り返したくないという強い思いから、学んだことを次に活かすことができる形をつないでいこうという取り組みです。大震災から20年以上経った今だからこそ聞けることば。今しか聞けないことば。その個々の経験を未来へどう活かせるか。世代を超えて、共有し、話し合い、未来へつないでいく。今の KOBÉ だからこそできるアクションです。

近い将来起こりうる南海トラフ巨大地震を見据えて、これから大震災を経験するかもしれないすべての人びとへ、防災の意識を継続させ、少しでも被害を小さくするために、「未災者」が大震災を知り、さらに「未災者」に伝え、つないでいく、新しいチャレンジです。

私たちはこれまでにないアクションにより、継続的な取り組みの検証と検討の場を通して、将来の被災者を減らします。

プログラム

※敬称略

- 10:00** ● **開会挨拶**
- 災害メモリアルアクションKOBÉ 企画委員会委員長
 - 人と防災未来センター震災資料研究主幹
 - 京都大学防災研究所 教授 牧 紀男
- 10:05** ● **活動発表**
- 発表：①兵庫県立舞子高等学校
 - ②兵庫県立明石南高等学校
 - ③滋賀県立彦根東高等学校
 - ④国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°
(明石高専防災団) 地域連携チーム
 - ⑤国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°
(明石高専防災団) 開発チーム
 - ⑥神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ
 - ⑦関西大学 社会安全学部 奥村研究室
 - ⑧兵庫県立大学防災リーダープログラムチーム
- 12:15** ● **パネルディスカッション**
「KOBÉのことば ～新しい表現～」
- コーディネーター：京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 助教 中野元太
 - 人と防災未来センター 主任研究員 高原 耕平
 - グラフィックファシリテーション：滋賀県立大学 環境科学部環境建築デザイン学科4年 多田 裕亮
 - パネリスト：兵庫県立舞子高等学校 生徒2名及び教員
兵庫県立明石南高等学校 生徒2名及び教員
- 13:10** ● **講評・閉会挨拶**
- 災害メモリアルアクションKOBÉ 企画委員会顧問
 - 人と防災未来センター長 河田 恵昭

主催：人と防災未来センター、京都大学防災研究所
共催：京都大学防災研究所自然災害研究協議会近畿地区部会
企画：災害メモリアルアクションKOBÉ企画委員会
後援：兵庫県教育委員会/神戸市/神戸市教育委員会/朝日新聞神戸総局/読売新聞神戸総局/毎日新聞神戸支局/産経新聞神戸総局/神戸新聞社/NHK神戸放送局/ラジオ関西/神戸学院大学/明石工業高等専門学校/関西大学社会安全学部



災害メモリアルアクションKOBÉ

ACTION 2021

全体テーマ：

KOBÉのこぼ

「KOBÉ」とは、阪神・淡路大震災の被災地域全体と、災害の影響を受けたひと、そして災害後まちのために活動したひと、すべてを表現しています。

阪神・淡路大震災から26年、大震災を直接経験していない若い世代の人たちが、災害を経験した人々へのインタビュー、アンケート、交流事業などの活動を通じて、次世代に伝えるべき「KOBÉのこぼ」を紡ぎ、活かし、広げます。「過去・いま・未来」を見据え、世代を超えて活動する、最先端のアクションです。

兵庫県立舞子高等学校



活動テーマは「同年代に語り継ぐ～未災者の視点だからこそ見えること～」。学校の先生方から震災経験と今の思いを聞かせていただき、そのこぼを冊子と年表にまとめ、全校生に共有します。震災後、どのような時間や取り組みを経て、今私たちが過ごしているまちや学校があるのか。皆で考えるきっかけにしたいと思います。

活動テーマは「同年代に語り継ぐ～未災者の視点だからこそ見えること～」。学校の先生方から震災経験と今の思いを聞かせていただき、そのこぼを冊子と年表にまとめ、全校生に共有します。震災後、どのような時間や取り組みを経て、今私たちが過ごしているまちや学校があるのか。皆で考えるきっかけにしたいと思います。

神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ



安富ゼミでは、2017年度からこの企画に参加し、「阪神・淡路大震災の教訓って？」をテーマに調査、研究を続けて毎年発表してきました。今年は、人的被害を最小限に抑えることができた「丹波豪雨災害」をピックアップし、研究・調査をしています。現地を訪れ、自治会長や市役所職員の方々からインタビューを行いました。その内容をもちに、何故これ程に犠牲者を少なく出来たのかを探っています。

関西大学 社会安全学部 奥村研究室



阪神・淡路大震災では家屋倒壊や家具転倒によって多くの命が失われました。その結果、それまでの「地震対策は火災対策」との認識は改められ、「耐震対策や家具固定」が重視されるようになりました。私たちの研究室では、その後の災害で発生した家具転倒による犠牲者を分析し、当時の教訓は生かされているのかを検証しています。

パネルディスカッションテーマ：

KOBÉのこぼ ～新しい表現～

KOBÉのこぼの表現はさまざま。学生たちは「震災」を伝えるアクションを模索するなかで、新しいこぼの表現を生み出しています。いまの若者だからこそ伝わる表現とはどのようなものでしょうか。先生の「震災」を同年代に伝える舞子高校生と、映像をつかって「震災」を発信する明石南高校生とともに、新しく生まれ変わるKOBÉのこぼの表現を考えます。

兵庫県立明石南高等学校



平成25年度兵庫県教育委員会の防災ジュニアリーダー育成事業により誕生して8目になりました。現在では校内外での活動が年間25回に及び、地域でも注目される活動となってきました。今年度は新型コロナウイルスのために対外的な活動ができませんが、次年度に向けて可能な限りの取り組みを続けています。

滋賀県立彦根東高等学校



彦根東高校新聞部は、2011年の東日本大震災発災以来、福島を追いかけ続けてきました。そして、「まだ終わっていない震災」の姿を描こうと、今も取材を続けています。昨年「災害メモリアルアクション」に加えていただき、神戸からも学べるがたくさんあると感じました。これから起こる災害のためにも、過去の震災の記憶を風化させてはいけません。神戸や福島から、高校生が、未災地・滋賀が、学べることを、伝え続けます。

国立明石工業高等専門学校 D-PRO135° (明石高専防災団)



地域連携チーム
今年度は神戸大学附属小学校で出前の防災授業を行いました。授業では、防災ゲームのチャレンジ!と避難所での感染症対策を交えた講義を行いました。また、新型コロナ感染症対策について勉強し、阪神・淡路大震災の災害対応で活躍された、櫻井さんと中溝さんのインタビュー内容を含めた防災新聞を作成しました。



開発チーム
防災ゲームの開発・改良を行っています。昨年開発したChoiceの体験会での意見を基に、ルール修正や、地域に合わせたボードとする改善を進めています。さらに、大阪防災プロジェクトと共同で「チャレンジ!」のオンライン化も行っています。高専生ならではの視点を活かして遊んで学べる防災ゲーム作りを進めています。

兵庫県立大学防災リーダープログラムチーム



兵庫県立大学防災リーダープログラム(副専攻)の学生たちは、減災・防災、復興について、地域住民と共に実践的な活動を通して学んでいます。その活動の一つとして、尼崎小田高校の高校生たちと共に取り組んでいる、高校を中心とした地域防災活動について紹介します。

お問い合わせ：

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター事業部普及課
Tel：078-262-5066 Fax：078-262-5082

本研究は京都大学防災研究所共同研究(令和2年度一般研究集会2020K-03)の成果によるものです。